

2015年12月28日

日本臨床検査医学会  
臨床検査専門医 各位

一般社団法人 日本臨床検査医学会  
理事長 村田 満  
総務理事（専門医機構領域委員代表） 山田俊幸

新専門医制度においてプログラム作成を検討している方へ（その5）

### 実際の申請にあたっての追加案内

研修プログラムならびに申請書の作成に大変な作業をされている最中と拝察します。ここで、いくつかご質問いただいたこと、新たな機構からの指示を踏まえ、追加案内いたします。

#### 全体を通して

早期提出の勧め：細部までを100%記入、記載するには時間がかかると思われます。本質的でないところは、(未定)、(調査中)、(準備中) などとして、予備審査的なお考えでまず提出いただけるようお願いします。

デジタルデータのお願い：機構からの通達により、審査は2次審査を含め、デジタルデータのやり取りで行われることに決定しました。特に申請書本体はエクセルファイルのフォーマットを変更せずに使うことになります。入力については、○をつけるところは数字を打ち直して①などとしてください。☑は、「ちえっく」の入力で変換されます。

#### 研修プログラムの本体

共通部分のコピー：共通部分はモデルプログラムをコピー・ペーストにより作成することになりますが、コピー元の不備を見つけるような慎重さで必ず読み直してください。

「22.専攻医の採用と修了について」での捕捉案内：専攻医が応募する書類（またはフォーマット）は各施設で準備してください。少なくとも1次申請時は、(準備未)として大丈夫です。履歴書も各施設で指定することになります（自由でもいいです）。一方、研修開始届は機構のフォーマットが準備されます。なお、提出先の領域研修委員会へのアドレスは、[pg@jslm.org](mailto:pg@jslm.org) です。様式は未定のままで大丈夫です。この中での履歴書の（様式・・・）は削除してください。

## 検査一覧の提出

基幹施設には申請書 3、連携施設には概要 3 で実施検査の一覧を提出するようお願いしています。これは、カリキュラムに示されている検査が行われているかを確認するためです。例えば遺伝子検査を施設内で行っていないならば、行っている施設に見学に行くことをプログラムに記載する必要があります。資料の提出にあたっては新たに一覧表を作成するのは大変ですので、検査案内や検査手帳を添付してください。デジタルデータがない場合は、可能な限り取り込みデータとしての提出をお願いします。どうしても難しい場合は相談してください。

### A. 基幹施設申請書

申請書 2：標ぼう診療科を書ききれない場合は、暫定的に申請書 2-2 の表下欄外に追加してください。

申請書 3：申請時の専攻医数は、現制度での専門医受験を目指して研修中の方の人数を記載してください。

申請書 4、別紙 5：専攻医の上限数は群全体の指導医数を記入してください（実際にそれより多く来た場合でも受け入れは可能です）。また、実際の募集人数は現状を鑑みて現実的な数を記載してください。

別紙 1：プログラム管理委員会は最低 4 人を考えてください。統括責任者、指導医 1 人、技師長、検査部以外の医師、の構成が基本型です。

別紙 2、(別紙 4、別紙 8)：連携施設の指導担当分野は、プログラムに記載した研修内容と整合性あるものにしてください。また、群全体で全ての分野を指導できるようにしてください。

別紙 3：一般的な職歴を記入してください。必要な講習会は指導医講習です（未受講の場合は受講予定としてください）。

別紙 4：指導医講習会として認定されたものは現時点で、2015 年 6 月の専門医会春季大会での講習のみですので、未受講の場合は受講予定としてください。

別紙 6：表題の（連携施設）は（基幹施設）の誤りですので訂正をお願いします。ここでは、もし、指導医が他のプログラムのためにも時間を割くのであれば、それに応じて、0.7 人と 0.3 人などと按分してください。この考え方は年間検査数にも適用してください。

別紙 9：連携施設検査件数の書き方（→以下 B. の説明で）

### B. 連携施設申請書

別紙 10：指導担当分野は、プログラムに記載した研修内容と整合性あるものにしてください。

別紙 11:別紙 10 で記載した指導分野についての検査が充分行われていることが確認されることが大前提です。指導しない分野の記入は不要という考え方もありますが、何らかの参

考にされる可能性がありますので、できましたら病院または検査部統計の全てを記入してください。